

大学の世界展開力強化事業(平成27年度採択) 山形大学 取組概要

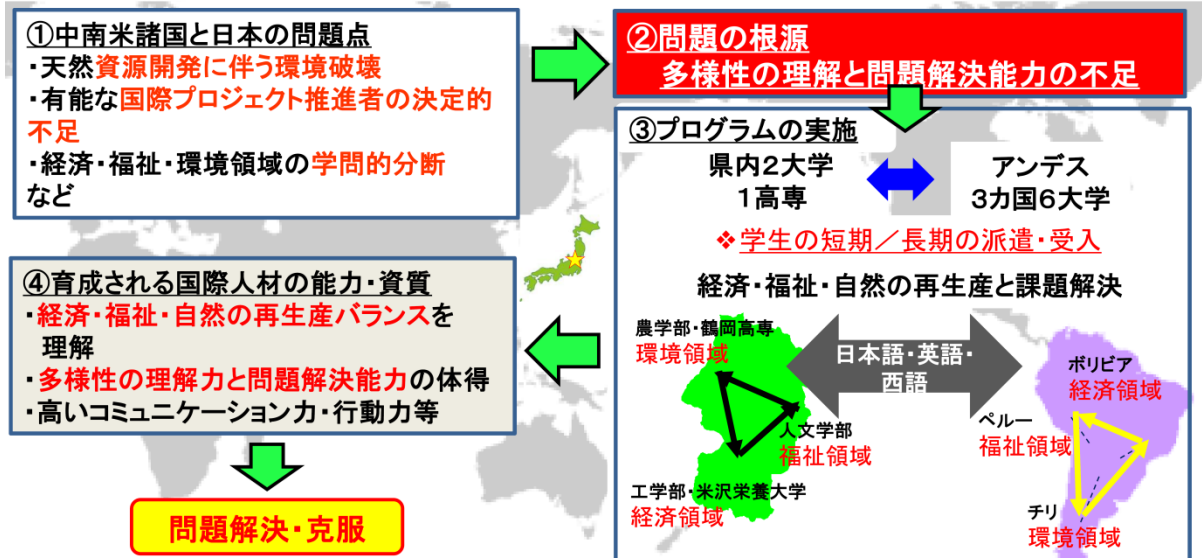
【事業の名称】(選定年度27年度・主たる交流先(中南米))

「山形・アンデス諸国」ダブル・トライアングル・プログラム

【事業の概要】

本事業は、山形大学のこれまでのアンデス諸国における高い研究と教育実績・経験を基礎として、山形とアンデス諸国の架け橋となる人材育成を行う。山形県内の3つの教育機関(山形大学、米沢栄養大学、鶴岡工業高等専門学校)と、ペルーの4大学(ペルー・カトリカ大学、国立工科大学、国立サンマルコス大学、ラ・モリーナ国立農業大学)、ボリビアの1大学(サンアンドレス・ボリビア国立大学)、チリの1大学(国立タルカ大学)との間で、短期・長期交換留学(日本人学生とアンデス諸国の学生の相互交流)、アンデス諸国と日本における語学教育(日本語とスペイン語)、就職支援、異文化理解などを実施する。日本企業に就職を希望する留学生に対しては、山形大学の高い実績と経験を活かして特に県内企業への就職を促す。

問題解決力を身に付ける教育プログラム



【交流プログラムの概要】

短期受入学生は日本人学生と合同研修を行い、日本文化や日本ビジネス、工業技術、環境保全、産業開発等について、3カ国語(西・英・日)で学習する。長期受入学生は、その他に企業就職レベルの日本語を学び、日本企業に1~2週間程度インターンシップを行う。短期派遣学生は、アンデス諸国における資源開発の現状や問題点、日系社会への理解、環境保全への対応等の教育を行う。またこれまでの山形大学の研究フィールドにおいて実践型学習を行う。長期派遣では、アンデス諸国の参画校において正規科目の学習と単位修得を行う。

【本事業で養成する人材像】

経済・福祉・自然の再生産に関するバランスが取れ、多様性を理解し、3カ国語(日本語・英語・スペイン語)の運用能力とコミュニケーション力に長けた人材。また行動力とバイタリティに溢れ、資源開発と国際協力活動に積極的に取り組み、リーダーシップを発揮してプロジェクトを企画・実施できるブリッジ人材。

【本事業の特徴】

アンデス諸国で長年、研究・教育を実施してきたフィールドを、日本人学生の派遣時にそのまま学習・研修の場として活用できることならびに留学生の受入れに関して各学部(人文学部(山形市)、工学部(米沢市)、農学部(鶴岡市))の学問的特長や資源を活用することで、多様性の理解と問題解決力を実践型で学び、高いコミュニケーション力と行動力を体得する。

【交流予定人数】

	H27								H28								H29											
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe				
学生の派遣	8			8				8	8			8				8	13			12				14				
学生の受入	1			1				3	2			2				4	2			2				8				
	H30								H31								短期派遣では、ボリビア、チリ、ペルーの3カ国において研修を実施することから表の派遣人数は延数を表すものではない。											
	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe	A	Bo	Br	Ch	Co	M	Pa	Pe												
学生の派遣	13			12				14	13			12				14												
学生の受入	2			2				8	2			2				8												

A: アルゼンチン Bo: ボリビア Br: ブラジル Ch: チリ Co: コロンビア M: メキシコ Pa: パナマ Pe: ペルー